様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年　６月２８日現在

機関番号：34503
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20520696
研究課題名（和文）近･現代における八重山ー台湾間の双方向的な人の移動と地域の変容

研究課題名（英文）Interactive migration between Yaeyama and Taiwan and regional transformation in Modern era Yaeyama.

研究代表者
水田　憲志（MIZUTA KENJI）
大手前大学総合文化学部・非常勤講師
研究者番号：90469239

研究成果の概要（和文）：本研究課題では以下の成果を得た。(1)日本植民地時代の台湾在住経験をもつ沖縄系移民のエスニシティの多元性について明らかにした。(2)太平洋戦争末期における沖縄県から台湾への疎開と戦争終結後の引き揚げの実態、ならびに台湾沖縄同郷連合会の存在とその役割について明らかにした。(3) 戦後初期において石垣島でパインアップルと水牛が普及する過程で台湾系住民が果たした役割について明らかにした。(4)研究成果を地域社会へ還元するために、八重山の地元高校で出前授業を実践した。さらに「八重山の台湾」を学ぶ郷土学習、生涯学習の教材となる図書の出版準備作業を継続中である。

研究成果の概要（英文）：　In this research program, we achieved these results;
(1) We had revealed the pluralism of Okinawans' ethnicity in Taiwan under Japanese rule.
(2) We had revealed the realities of evacuation from Okinawa to Taiwan in the end of the Pacific war, and the existence and role of the Union of Association of people from Okinawa in Taiwan.
(3) We had revealed that the people from Taiwan had an important role in the process of diffusion of pineapple and water buffalo in the beginning of postwar days Ishigaki Island.
(4) To contribute homeland study, we executed special class in high school of Yaeyama. And we will publish a guidance textbook on "Taiwan in Yaeyama".

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	900,000	270,000	1,170,000
２００９年度	600,000	180,000	780,000
２０１０年度	600,000	180,000	780,000
総　計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：人文地理学
キーワード：移民、引揚、植民地、八重山、石垣島、台湾、生活史

１．研究開始当初の背景

琉球弧の西南端に位置する沖縄県八重山諸島（八重山）は、19 世紀末以降、距離が近い台湾との間で双方向的な人やモノの往来が活発化した。近・現代の八重山と台湾を結ぶ人の移動や、石垣島における台湾系住民に関しては、これまでに一定の研究蓄積がみられるものの、人の移動を通した文化接触が個人や八重山の地域社会に及ぼした影響については十分に解明されているとは言えない。また、戦前から戦争終結直後の状況についても未だ不明の部分が多い。さらには、これまで各分野で個別に行われていた研究をまとめ、知見を広く社会に還元する必要がある。

２．研究の目的

本研究課題は、従来別個に扱われていた国境を挟んだ島嶼フロンティアにおける人の移動と地域の変容の問題を、連続的かつ双方向な視点から捉え、歴史、社会、文化など多様な側面から下記(1)～(4)を明らかにする。

(1)1920 年代～1940 年代に八重山地方出身者が多く台湾で働くようになった社会経済状況について、プッシュとプルの双方のファクターを関連付けながら明らかにする。また、当時の経験が現在どのように語られ、意味づけられているのかを検討する。

(2)日本による台湾の植民地支配終結から、与那国島を拠点にした「密貿易」が本格化するまでの期間に、台湾東海岸の南方澳に残留していた沖縄出身者の実態を明らかにし、台湾引揚者が沖縄・八重山の戦後社会のなかで果たした役割を検証する。

(3)日本植民地下の台湾で生まれた沖縄系の人々の、日本敗戦後の沖縄への移動と定住、アイデンティティ葛藤について、沖縄本島と石垣島で資料収集を行い、またこれまでに得た生活史調査のデータを用いて考察する。

(4)台湾系住民によって八重山にもたらされたパインアップルと水牛が、八重山における戦後の開拓と「パインブーム」、さらに 1970 年代以降の観光化の過程において地域社会へ及ぼした影響を検証する。

３．研究の方法

各自が沖縄県内および台湾において、資料収集および生活史の聞き取り調査、現地調査を実施した。

現地での資料収集に加え、琉球大学国際沖縄研究所移民研究部門が所蔵する「引揚者在外事実調査票」のデータベース化を行い，台湾在住の沖縄県民の就労構造分析を試みた。

以上の調査研究を進めるとともに、定期的に会合を開いて研究成果を学術論文以外の形で地域社会へ還元するための方法を協議した。

４．研究成果

沖縄県内各機関での資料収集の結果、戦後琉球政府時代の基礎的な資料については収集をほぼ終えたが、新聞記事の収集は完了に至らなかった。台湾での資料調査では、これまで未解明だった戦後の引揚者に関する資料を発見し、大きな成果を得た。また、台湾在住経験を持つ沖縄（八重山）出身者に対する生活史の聞き取り調査の結果、20 名以上の生活史が蓄積された。

これらの調査研究から以下(1)～(4)の成果が得られた。

(1) 台湾在住経験をもつ沖縄系移民が、従来は静態的かつ統一的なカテゴリーとして理解されてきた「沖縄人」というカテゴリーといかに向き合い、意味づけてきたのかという点に着目し、沖縄系移民のエスニシティが世代や出身地域の違いによって様々な多元性を持つものであることを明らかにした。

(2) 日本による台湾植民地支配や沖縄戦の歴史研究において、これまで未解明であった太平洋戦争末期における沖縄県から台湾への疎開と戦争終結後の引き揚げの実態を明らかにした。台湾の国史館台湾文献館資料によって台湾沖縄同郷連合会の存在とその役割が明らかになった。

(3)戦前に台湾から八重山へ持ち込まれたパインアップルは戦後の琉球政府時代にはサトウキビを凌ぐ八重山の基幹産業にまで成長し、地域経済に大きく寄与した一方で、パインアップル栽培の普及による大規模な農地開発が石垣島の景観を大きく変えたことが明らかになった。台湾系住民は戦後初期から石垣島でパインアップルを普及させ、後の「パインブーム」の基礎を作りあげることに多いに貢献したが、決してその主役とはなりえなかった。台湾系住民によって石垣島に持ち込まれたパインアップルと水牛は 1950 年代から 1960 年代にかけて普及したが、その後衰退した。台湾から来たパインアップルと水牛は、観光客に「南の島」を想起させる記号として今日の八重山に定着しているが、これらはいわば戦後琉球政府時代の八重山を象徴する風景であった。

(4) 本研究課題で得た研究成果を、地域社会に還元するために、八重山の地元高校で「台湾－八重山の国際社会学」というタイトルで出前授業を実施した。さらに、地域の中学校・高校向け副教材や、修学旅行生および石垣島の歴史に関心を持つ一般観光客のための観光ガイド、地域における生涯学習のためのテキストとして用いることができる図書の出版を企画立案し、目下準備作業を継続中である。研究成果を地域社会へ還元し、研究対象地である沖縄県石垣島の地域社会において台湾系住民や八重山と台湾の関係についての理解を深め、よりよい関係の構築に資することを目指す。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）
１．松田ヒロ子、植民地台湾における沖縄系移民のエスニシティ―「沖縄人」をめぐる葛藤と実践―、白山人類学 14 号、7－30 頁、2011 年 3 月、査読有

２．松田良孝、台湾沖縄同郷連合会の実態と今後の課題―「台湾疎開」に焦点を当てて―、白山人類学 14 号、81-102 頁、2011 年 3 月、査読有

３．水田憲志、八重山と台湾を行き交う人ともの、地理 55 巻 2 号、66－75 頁、2010 年、査読無

４．野入直美、「アメラジアン」という視点、理論と動態 2 号、18－39 頁、2009 年、査読有

５．卞鳳奎、日治時期臺灣人民在八重山的移民活動、2008 海洋文化国際学術研討会論文集（台湾、国立台湾海洋大学）、3-2-1～3-2-14 頁、2008 年、査読無

〔学会発表〕（計５件）
１．水田憲志、戦後琉球政府時代の石垣島における台湾系住民、日本台湾学会第 13 回学術大会、2011 年 5 月 29 日、早稲田大学

２．松田良孝、戦後台湾で発足した台湾沖縄同郷会連合会について－沖縄から台湾に疎開した人々の引き揚げを例に－、白山人類学研究会・東洋大学アジア文化研究所「境域」プロジェクト共同開催フォーラム「台湾をめぐる境域」、2010 年 11 月 6 日、東洋大学

３．水田憲志、八重山と台湾を結ぶ人の移動－近代期から現在まで－、科学研究費補助金「日本「周辺」地域にみる国境変動とアイデンティティ：韓国・台湾との越境を巡って」（基盤研究(B),上水流久彦代表）研究集会、2009 年 10 月 31 日、筑紫女学園大学

４．水田憲志、日本植民地下の台湾における鹿児島県出身者の人口的特性、関西大学東西学術研究所・鹿児島大学多島圏研究センター合同研究集会、2008 年 12 月 22 日、鹿児島大学多島圏研究センター

５．卞鳳奎、日治時期臺灣人民在八重山的移民活動、2008 海洋文化国際学術研討、2008 年 11 月６日、国立台湾海洋大学（台湾，基隆市）

〔図書〕（計６件）
１．野入直美、御茶の水書房、ディアスポラと“ローカル”－ハワイにおける帰米とアメラジアンの事例から－、白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー－民族間交渉と文化創成－』、2011 年、145 - 180 頁

２．Naomi Noiri, Routledge, Schooling and identity in Okinawa: Okinawans and Amerasians in Okinawa. in Ryoko Tsuneyoshi, Kaori H. Okano and Sarane Spence Boocock eds. “Minorities and Education in Multicultural Japan: An interactive perspective" 2011, 77-99.

３．Naomi Noiri, Teachers College Press, New York, The Education of Minorities in Japan: Voices of Amerasians in Okinawa. In June Gordon ed. “Challenges to Japanese Education.” 2010, 164-177.

４．松田良孝、南山舎、『台湾疎開－「琉球難民」の 1 年 11 カ月－』、南山舎、2010 年、347 頁、（2010 年新聞労連ジャーナリスト大賞受賞）

５．野入直美、ミネルヴァ書房、ライフヒストリーが作品になるまで①、安田富雄、芦田徹郎編『よくわかる質的社会調査　技法編』、2009 年、92－105 頁

６．野入直美、不二出版、生活史から見る沖縄・台湾間の双方向的移動、蘭信三編著『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』、2008 年、559-592 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
水田　憲志（MIZUTA KENJI）
大手前大学総合文化学部・非常勤講師
研究者番号：90469239

(2)研究分担者
野入　直美　（NOIRI NAOMI）
琉球大学法文学部・准教授
研究者番号：90264465

研究協力者
松田良孝（MATSUDA YOSHITAKA）
八重山毎日新聞社・記者

松田ヒロ子（MATSUDA HIROKO）
日本学術振興会・特別研究員（上智大学）

卞鳳奎（Bian feng kui）

国立台湾海洋大学（台湾）・助理教授